

## —国内動向—

## 1 東京都・大阪市中央卸売市場の需給動向（令和8年4月）

## 【ポイント】

- 気温は、全国的にかなり高かった。降水量は、西日本太平洋側でかなり多かった。日照時間は、西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり少なかった。
- 東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は10万3886トン、前年同月比97.6%、価格は1キログラム当たり297円、同96.5%となった。
- 大阪市中央卸売市場における野菜の入荷量は3万2081トン、前年同月比90.3%、価格は1キログラム当たり278円、同98.8%となった。
- 5月の梅雨入り前に、晴天が少しでも続けば、果菜類を中心に出回りは引き続き多く、6月後半から7月は、物不足で高値の展開が予想される。

## (1) 気象概況

上旬は、本州付近および北日本の北方を低気圧と高気圧が比較的短い周期で交互に通過した。旬平均気温は、全国的にかなり高く、北日本の旬平均気温の平年差は+3.1度と1946年の統計開始以降、4月上旬として1位の高温となった。

旬降水量は、全国で多かった。特に4日頃と10日頃に日本海を東進した低気圧により、全国的にまとまった雨となり、東・西日本太平洋側を中心に大雨となった所もあった。

旬間日照時間は、低気圧や前線の影響を比較的受けやすかった北・東・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側で少なかった。

中旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過した。旬平均気温は日本付近は暖かい空気に覆われやすかったため、東日本では真夏日となる所もあるなど、全国的にかなり高かった。沖縄・奄美の旬平均気温の平年差は+2.8度と1946年の統計開始以降、4月中旬として1位タイの高温となった。

旬降水量は、東日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側、北・東日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。

旬間日照時間は、沖縄・奄美でかなり多く、北・東日本日本海側と北・東日本太平洋側で多かった。一方、西日本日本海側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった。

下旬は、日本付近を低気圧と高気圧が交互に通過した。旬平均気温は日本付近は北・東日本を中心に暖かい空気に覆われやすかったため、北・東日本で高かった。

旬降水量は、北日本は高気圧に覆われやすかった一方、東・西日本では本州南岸を通過した低気圧や日本の南海上に停滞した前線の影響を受けやすく、北日本太平洋側で少なかった一方、西日本太平洋側でかなり多く、東日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。

旬間日照時間は、北日本日本海側、北日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった一方で、西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。

旬別の平均気温、降水量、日照時間は図1の通り。

図1 気象概況

	平均気温			降水量			日照時間		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本						日本海側 太平洋側			
東日本						日本海側 太平洋側			日本海側 太平洋側
西日本									

資料：気象庁「4月の天候」

1 平年を上回る水準			
2 平年並み			
3 平年を下回る水準			

## (2) 東京都中央卸売市場

東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は10万3886トン、前年同月比97.6%、

価格は1キログラム当たり297円、同96.5%となった(表1)。

表1 東京都中央卸売市場の動向(4月速報)

品目	入荷量(t)	前年比(%)	平年比(%)	価格(円/kg)	前年比(%)	平年比(%)	価格(円/kg)の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	103,886	97.6	90.5	297	96.5	106.0	291	297	301
だいこん	7,433	91.4	84.0	95	81.7	94.1	84	88	111
にんじん	6,675	101.9	94.0	183	64.3	91.7	209	188	156
はくさい	5,782	106.1	101.3	68	69.7	83.5	70	67	67
キャベツ類	15,158	93.3	85.1	109	93.6	101.9	101	116	111
ほうれんそう	1,453	103.8	105.2	460	96.9	95.9	434	487	460
ねぎ	3,528	116.4	103.5	250	57.3	67.3	219	252	280
ブロッコリー	2,736	83.1	91.7	496	113.7	115.0	473	547	474
レタス類	5,888	89.2	89.3	182	104.1	97.0	187	169	191
きゅうり	5,923	99.7	90.9	330	105.5	107.4	324	327	339
なす	2,294	88.2	91.3	410	105.9	101.4	383	393	462
トマト	5,839	99.9	91.6	412	103.3	106.7	433	415	393
ピーマン	2,189	90.4	89.1	587	94.8	101.5	603	570	589
ばれいしょ	5,993	108.2	86.3	336	105.0	135.5	302	353	353
さといも	203	90.1	71.1	351	98.4	113.2	341	346	365
たまねぎ	9,396	97.8	84.1	199	123.1	137.8	210	206	183

資料：東京青果物情報センター「青果物流通月報・旬報」

注1：平年比は過去5カ年(令和3~7年)平均との比較。

注2：豊洲、大田、豊島、淀橋、葛西、北足立、板橋、世田谷、多摩ニュータウンの9市場のデータである。

根菜類は、にんじんの価格が、極端な高値だった前年を3割以上下回り、平年をかなりの程度下回った（図2）。

葉茎菜類は、ねぎの価格が気温の上昇に伴い需要が減退し、春ねぎの残量も多く、品質も下がらなかったことから夏ねぎへの移行が進まず、大幅に高値で推移した前年を4割以上下回り、平年を3割以上下回った（図3）。

果菜類は、ピーマンの価格が、高値で推移した前年をやや下回り、平年をわずかに上回った（図4）。

土物類は、たまねぎの価格が、堅調な推移から下旬に向け、やや落ち着いたものの、前年を2割以上上回り、平年を4割近く上回った（図5）。

品目別の詳細については表2の通り。

図2 にんじんの入荷量と卸売価格の推移

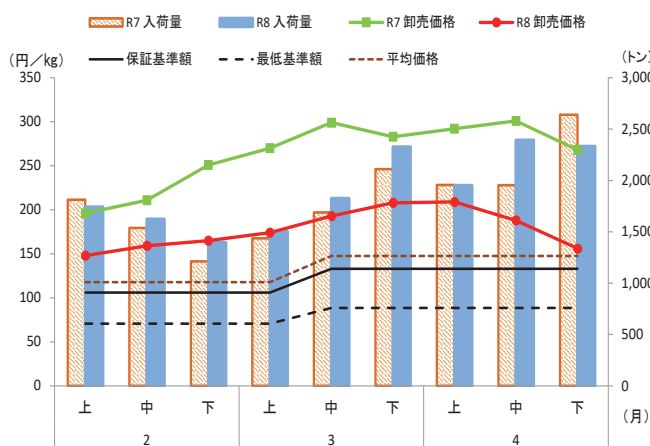


図3 ねぎの入荷量と卸売価格の推移

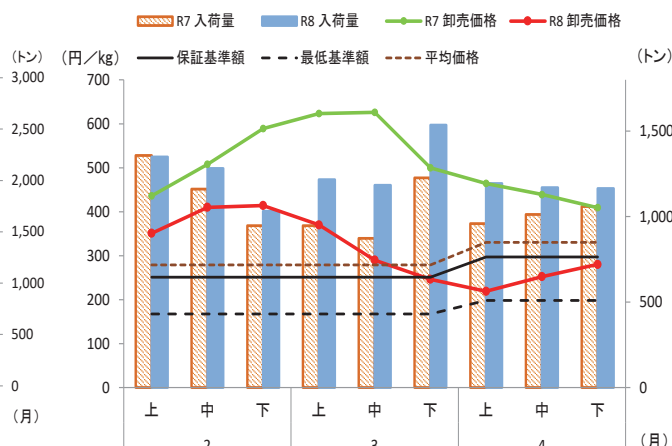


図4 ピーマンの入荷量と卸売価格の推移

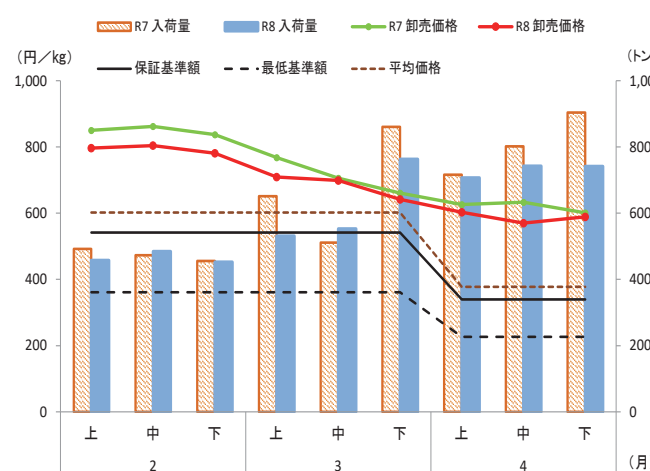
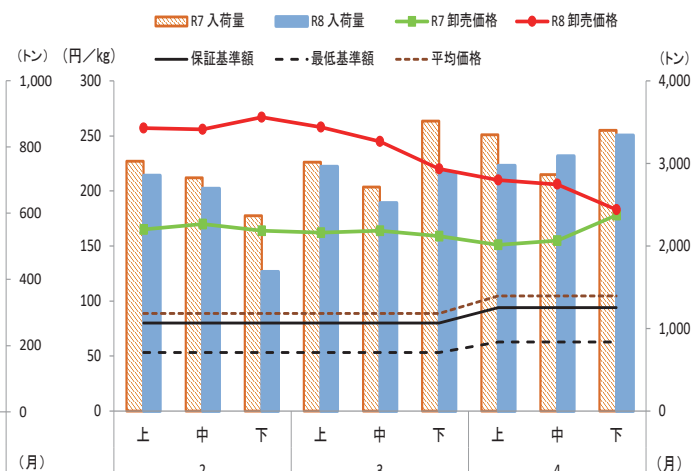


図5 たまねぎの入荷量と卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター「青果物流通旬報」

注1：卸売価格とは、東京都中央卸売市場の平均卸売価格で、指定野菜価格安定対策事業（以下「事業」という）における平均価格、保証基準額および最低基準額とは、関東ブロックにおける価格である。

注2：平均価格とは、事業における過去6カ年の卸売市場を平均した価格を基に物価指数等を加味した価格である。

注3：事業における価格差補給交付金は、平均販売価額（出荷された野菜の旬別およびブロック別の平均価額）を下回った場合に交付されるため、上記の各表で卸売価格が保証基準額を下回ったからといって、交付されるとは限らない。

表2 品目別入荷量・価格の動向（東京都中央卸売市場）

類別	品目	4月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	千葉産を中心に茨城産などの入荷があった。千葉産の作付面積は前年並みで、乾燥により遅れていた生育は、4月までの降雨と気温の上昇により回復した。乾燥の影響による横縞症が散見されたが、大きな影響はない。茨城産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調である。総入荷量は、少なかった前年をかなりの程度下回り、平年を大幅に下回った。 価格は、高値で推移した前年を2割近く下回り、平年をやや下回った。
	にんじん 	徳島産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、乾燥傾向により生育が停滞したが、その後の気温の上昇で回復し肥大も順調。輸入の中国産は、前年を4割以上下回った。総入荷量は大幅少なかった前年はずかに上回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、極端な高値だった前年を3割以上下回り、平年をかなりの程度下回った。
葉茎菜類	はくさい 	茨城産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、気温の上昇と降雨により生育はやや前進傾向であった。総入荷量は前年をかなりの程度上回り、平年をわずかに上回った。 価格は、月間を通して大きな動きなく、高値で推移した前年を3割以上下回り、平年を大幅に下回った。
	キャベツ類 	神奈川県、愛知産を中心に千葉産などの入荷があった。神奈川産の作付面積は、前年をやや下回った。3月後半からの気温の上昇と適度な降雨により、生育は7～10日ほど前進した。愛知産の作付面積は前年並みで、適度な降雨と気温に恵まれ生育は順調で、やや前進した。一部で虫害が散見される。千葉産の作付面積は前年並みで、降雨と気温の上昇で生育は前進傾向であるが、降雨による作業の遅れが見られる。また病虫害が散見される。総入荷量は少なかった前年をかなりの程度下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、中旬以降堅調な動きとなり、前年をかなりの程度下回り、平年をわずかに上回った。
	ほうれんそう 	群馬産、茨城産中心の入荷があった。群馬産の作付面積は前年並みで、一部虫害が散見されるが、生育はおおむね順調であった。茨城産の作付面積は前年並みで、適度な降雨と気温の上昇により生育は順調で前進傾向であった。総入荷量は、前年、平年ともにやや上回った。 価格は、やや高値で推移した前年、平年ともにやや下回った。
	ねぎ 	千葉産、茨城産中心の入荷があった。千葉産の作付面積は前年並みで、3月のまとまった降雨と気温の上昇で生育は順調であった。茨城産の作付面積は前年並みで、適度な降雨による乾燥の解消と気温の上昇で回復し順調であった。夏ねぎの出荷が開始されたが、春ねぎの残量が多い。輸入の中国産は、前年の半分以下となった。総入荷量は、少なかった前年を大幅に上回り、平年をやや上回った。 価格は、気温の上昇に伴い需要が減退し、春ねぎの残量も多く、品質も下がらなかったことから夏ねぎへの移行が進まず、大幅に高値で推移した前年を4割以上下回り、平年を3割以上下回った。
	ブロッコリー 	熊本産、香川産を中心に埼玉産、長崎産などの入荷があった。熊本産の作付面積は前年並みで、天候に恵まれ生育は順調であった。香川産の作付面積は前年並みで、3月下旬からの気温の上昇とまとまった降雨により、生育はやや軟弱傾向であった。虫害が散見される。埼玉産の作付面積は前年並みで、低温・乾燥で遅れていた初期生育は、3月中旬以降の気温の上昇と降雨により回復し順調である。長崎産の作付面積は前年並みで、生育は前年並みに進んでいる。総入荷量はやや多かった前年を大幅に下回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、中旬に底上げとなり、前年、平年ともにかなり大きく上回った。
	レタス類 	茨城産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、低温・乾燥の影響により遅延傾向であった生育は、適度な降雨と気温の上昇で回復し、おおむね順調であった。総入荷量は、前年、平年ともにかなりの程度下回った。 価格は、安値で推移した前年をやや上回り、平年をやや下回った。

果菜類	きゅうり 	群馬産、埼玉産を中心に宮崎産などの入荷があった。群馬産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調だが、2月の気温差が大きかった影響により、一部に枯死が見られ、また虫害が散見される。埼玉産の作付面積は前年並みで、3月中旬以降の高気温と高湿度から、生育は順調で、果形も良好である。宮崎産の作付面積は前年並みで、一部樹勢の低下が散見されたものの、生育はおおむね順調である。総入荷量は、少なかった前年並みで、平年を1割近く下回った。 価格は堅調推移となり、前年をやや上回り、平年をかなりの程度上回った
	なす 	高知産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調だが、気温の上昇に伴い、着果負担による樹勢の低下が散見される。一部圃場 <sup>ほしやう</sup> で病害が散見されるが大きな影響はない。後続の群馬産など関東のハウスものは、一部で虫害が散見されるものの、生育は順調である。総入荷量は、やや多かった前年をかなり大きく下回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は下旬に向け上げ、やや安値で推移した前年をやや上回り、平年をわずかに上回った。
	トマト 	熊本産、栃木産を中心に愛知産などの入荷があった。熊本産の作付面積は前年並みで、病害が一部散見されているが、生育はおおむね順調である。栃木産の作付面積は前年並みで、促成作の生育はおおむね順調であるが、若干小玉傾向である。気温の上昇や曇雨天の影響により、一部で病虫害が散見される。冬春作は日照に恵まれ、玉肥大よく生育は良好である。愛知産の作付面積は、前年をやや下回る。天候に恵まれ生育は順調だが、一部で病害が散見される。総入荷量は、少なかった前年並みとなり、平年をかなりの程度下回った。 価格は、下旬に向け少しずつ落ち着きを見せ、前年をやや上回り、平年をかなりの程度上回った。
	ピーマン 	茨城産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、一部で曇雨天の影響による花落ちが散見されているほか、収穫遅れが散見される。総入荷量は、前年並みであった前年、平年ともにかんがりの程度下回った。 価格は、高値で推移した前年をやや下回り、平年をわずかに上回った。
土物類	ばれいしょ 	鹿児島産を中心に北海道産 <sup>そうまい</sup> の入荷があった。鹿児島産の作付けは、前年を下回る。一部の産地で疫病が散見された。霜害や乾燥の影響もあり生育の遅延が見られていたが、その後の天候に恵まれ回復傾向である。北海道産の作付面積は前年並みで、収穫を終了した。夏場の高温・乾燥の影響により小玉傾向であった。発芽が懸念される。総入荷量は大幅に少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は堅調で推移し、高値で推移した前年をやや上回り、平年を3割以上上回った。
	さといも 	埼玉産中心の入荷があった。作付面積は前年並みで、収穫は終了して、貯蔵から出荷されており、残量も少ない。輸入の中国産については、前年を4割近く上回っている。総入荷量は、少なかった前年を1割ほど下回り、平年を3割近く下回った。 価格は、商材からは外れてきているものの堅調で推移し、高値で推移した前年をわずかに下回り、平年をかなり大きく上回った。
	たまねぎ 	北海道産、佐賀産中心の入荷があった。北海道産の作付面積は前年並みで、収穫を終了した。高温・乾燥の影響もあり、小玉傾向で不作であった。佐賀産の作付面積は前年並みで、気温の上昇と定期的な降雨により生育は順調で、病虫害の発生も少ない。輸入の中国産は前年を8割以上上回り、ニュージーランド産は2割以上上回っている。総入荷量は、少なかった前年をわずかに下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、堅調な推移から下旬に向けやや落ち着いたものの、前年を2割以上上回り、平年を4割近く上回った。

(執筆者：東京シティ青果株式会社 平田 実)

### (3) 大阪市中央卸売市場

大阪市中央卸売市場における野菜の入荷量は3万2081トン、前年同月比90.3%、

価格は1キログラム当たり278円、同98.8%となった(表3)。

品目別の詳細については表4の通り。

表3 大阪市中央卸売市場の動向(4月速報)



品目	入荷量(t)	前年比(%)	平年比(%)	価格(円/kg)	前年比(%)	平年比(%)	価格(円/kg)の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	32,081	90.3	86.9	278	98.8	108.2	269	281	286
だいこん	1,988	103.7	86.7	85	76.2	92.7	74	80	101
にんじん	2,378	89.2	90.9	166	61.0	84.6	199	166	138
はくさい	2,743	88.6	86.4	73	83.5	91.6	62	79	78
キャベツ類	4,031	85.2	82.2	99	96.7	101.8	82	106	114
ほうれんそう	404	89.5	93.7	529	108.9	102.2	450	548	596
ねぎ	821	114.8	117.0	338	73.0	82.1	313	335	363
ブロッコリー	424	97.7	96.6	501	112.6	120.7	443	580	493
レタス類	1,241	91.1	88.9	176	116.5	95.9	171	156	201
きゅうり	1,182	88.1	80.7	316	110.9	107.0	302	308	336
なす	912	90.7	97.9	380	102.6	98.7	359	371	413
トマト	1,822	103.2	103.8	384	100.4	101.6	403	386	368
ピーマン	583	84.6	106.4	556	98.4	100.3	568	528	575
ばれいしょ	2,253	75.2	68.7	334	105.7	131.0	295	349	354
さといも	41	111.2	85.4	365	82.7	105.2	354	358	384
たまねぎ	4,217	87.7	82.9	183	120.1	132.1	186	185	179

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年比は過去5カ年(令和3～7年)平均との比較。

注2：大阪本場および大阪東部市場のデータである。

表4 品目別入荷量・価格の動向(大阪市中央卸売市場)

類別	品目	4月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	香川産が主体となり、鹿児島産、長崎産、千葉産などの入荷があった。上旬までは、徳島産の残量入荷もあった。各産地とも生育順調であったが、気温が高いことから前進出荷傾向となり、九州産地は、下旬には入荷減量となった。月間全体の入荷量は、前年をやや上回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、旬を追うごとに不足感から上伸を続けたが、単価が高かった前年を2割以上下回り、平年をかなりの程度下回った。
	にんじん 	徳島産が中心となり、長崎産も主体となる入荷であった。気温が高く前進出荷傾向となり、前半は前倒しで入荷増量となった。しかし、悪天候の日が多く日照量が少なかったこともあり、Mサイズ中心で入荷量自体は伸び悩んだ。月間全体の入荷量は、前年、平年ともかなりの程度下回った。 価格は、不足感により高値が続いた前月の名残から、上旬までは比較的高値となったが、出回り量が増えたことから旬を追うごとに下落した。月間の価格は、極端な単価高だった前年を約4割近く下回り、平年をかなり大きく下回った。

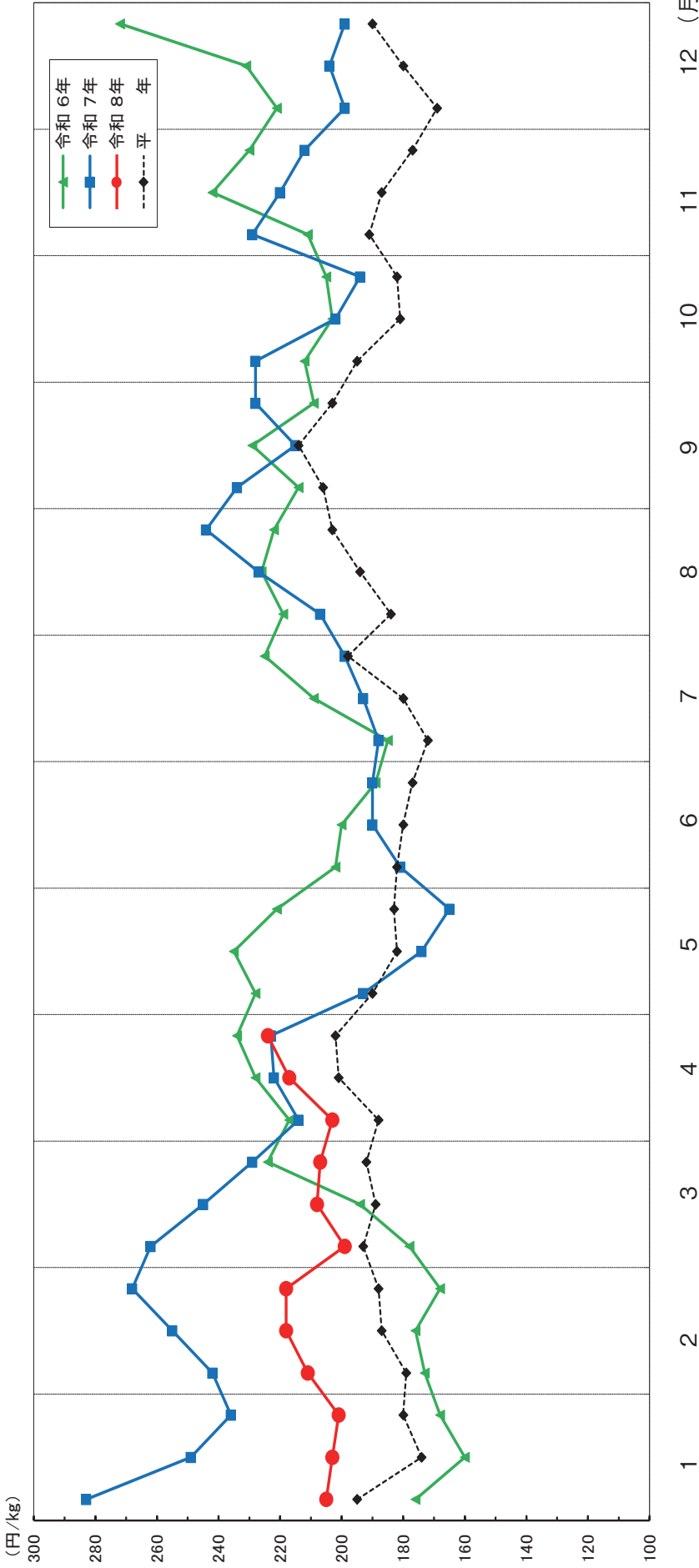
葉茎菜類	はくさい	<p>茨城産が中心となり、長崎産の残量入荷などがあった。長崎産は中旬で早々に切り上がり、月間の入荷量は前年を大幅に下回った。茨城産は干ばつの影響で生育が悪く、産地出荷量が伸び悩み、旬を追うごとに入荷増量となるも月の前半は少なく、下旬には回復するも、月間では少なかった前年並みにとどまった。月間全体の入荷量は、前年、平年ともかなり大きく下回った。</p> <p>価格は、消費地の気温が高く消費が鈍い中で、業務関係は冷蔵の在庫が多かったため、引き合いが強まらずに販売に苦戦した。月間の価格は、前年を大幅に下回り、平年をかなりの程度下回った。</p>
		
	キャベツ類	<p>寒玉キャベツ、春キャベツとも愛知産が中心となる入荷であった。降雨の日が多く日照量も少ないことから、産地出荷量が少ない状況が続いた。前月までの前進気味の出荷により冷蔵物の残量も多くなく、悪天候で後続がやや出遅れ、入荷量は旬を追うごとに減量傾向となった。月間全体の入荷量は、前年をかなり大きく下回り、平年を大幅に下回った。</p> <p>価格は、中心階級の入荷が少なく、全体の入荷量が少ない中でも伸び悩み、月間では前年をやや下回り、平年をわずかに上回った。</p>
		
	ほうれんそう	<p>夏秋産地の岐阜産が主体の入荷となり、秋冬産地の徳島産や福岡産の残量入荷があった。気温高で前進気味だった秋冬産地の切り上がりが早く、岐阜産は順調な入荷となったが、月間全体の入荷量は、前年、平年ともかなりの程度下回った。</p> <p>価格は、不足感から旬を追うごとに上伸びし、月間では前年をかなりの程度上回り、平年をわずかに上回った。</p>
		
	ねぎ (白ねぎ)	<p>鳥取産と群馬産が主体となる入荷であった。各地とも前年よりも作柄が良く、潤沢な産地出荷が続いた。全旬とも入荷量が安定し、月間入荷量は、前年を大幅に上回った。</p> <p>入荷量が多かったが、消費地の気温が高く消費は鈍かったため、価格は安値で推移した。</p>
		
	ねぎ (青ねぎ)	<p>青ねぎは徳島産が中心となり、高知産や香川産などの入荷があった。細ねぎは高知産と静岡産が主体となる入荷であった。各地とも生育良好で産地出荷量が多い状況が続いたが、極端な気温上昇や降雨の影響で品質低下も発生し、下位等級品の比率が高くなった。月間全体の入荷量は前年を上回った。</p> <p>価格は入荷量が多いことに加えて、下位等級品比率が高かったことなどから安値で推移した。</p>
		
	ブロッコリー	<p>徳島産が中心となる入荷であった。気温が高く前進気味ではあったが、比較的順調な出荷が続いた。鳥取産や九州産は、早々に切り上がった。西日本全体で降雨の日が多く、入荷量自体は伸び悩み、月間全体の入荷量は前年をわずかに下回り、平年をやや下回った。</p> <p>価格は、引き合いが強く売場展開もあり、高値の中、不足感から中旬に上伸びした。月間では前年をかなり大きく上回り、平年を2割以上上回った。</p>
		
	レタス類	<p>玉レタスのラップ物は、兵庫産が中心となり、茨城産の入荷があった。裸レタスは長崎産が主体となり、後続の夏秋産地の長野産の入荷が下旬にスタートした。兵庫産、長崎産は気温が高く、品質低下品が多かったことで産地出荷量が増えず、入荷量も少ない状況が続いた。茨城産は順調であったが、月間全体の入荷量は前年を下回った。サニーレタスは福岡産が中心となる入荷で、下旬には後続の長野産がスタートした。気温高で品質低下が多く発生し、入荷量は前年をかなり下回った。リーフレタスも福岡産を中心に、下旬から後続の長野産の入荷があった。サニーレタス同様に気温高から品質低下が目立ち、産地出荷量が少ない状況が続いた。レタス類全体の月間入荷量は、前年をかなりの程度下回り、平年をかなり大きく下回った。</p> <p>不足感から価格は高値推移となり、月間では、前年を大幅に上回り、平年をやや下回った。</p>
		

果菜類	きゅうり 	<p>主力の宮崎産が中心となり、高知産、徳島産などの入荷があった。天候が悪く、降雨の日が多く日照量も少ない状況が続いたが、樹の状態は良く、多くはないものの安定した産地出荷が続いた。しかしながら、月間入荷量は前年をかなり大きく下回り、平年を2割近く下回った。</p> <p>価格は、前月までの安値の影響が残る中、値頃感が生じ特売需要などが増え、引合いが強まったことから旬を追うごとに上伸した。月間では前年、平年ともかなりの程度上回った。</p>
	なす 	<p>千両系は、高知産が中心となり大阪産や岡山産などが入荷し、長なすは、福岡産と熊本産が主体となる入荷であった。各地とも気温が高く、上旬までは順調な産地出荷であったが、その後は降雨の日が多く日照量が少ない状況が続き、中旬以降の入荷量は伸び悩んだ。月間全体の入荷量は、前年をかなりの程度下回り、平年をわずかに下回った。</p> <p>価格は、入荷量に連動して旬を追うごとに上伸した。消費地の気温が高く、量販店でも一定の需要はあったが、特売や大きな売場展開などは少なく伸び悩んだ。月間では前年をわずかに上回り、平年をわずかに下回った。</p>
	トマト 	<p>愛知産と熊本産が主体となり、福岡産などの入荷もあった。日中の気温が高い中でも降雨の日が多く日照量が少なかったことや、朝晩には気温が低くなったことで着色遅れが目立ち、産地出荷量は伸び悩んだ。月間全体の入荷量は、前年、平年ともにやや上回った。</p> <p>消費地の気温が高く、量販店でも一定の需要があり、価格は旬を追うごとに微落傾向も、月間では前年、平年ともわずかに上回った。</p>
	ピーマン 	<p>宮崎産が中心となり、高知産も主体となる入荷であった。気温が高く、上旬までは産地出荷量が多い状況であったが、高知産は悪天候で日照量が少ない日が多く、旬を追うごとに入荷減量となった。前年の入荷量が多かった影響もあり、月間全体の入荷量は、多かった前年をかなり大きく下回り、平年をかなりの程度上回った。</p> <p>消費地の気温が高く、量販店でも一定の需要があり、価格は安定して推移した。月間では前年をわずかに下回り、平年並みであった。</p>
土物類	ばれいしょ 	<p>丸芋は、鹿児島産が中心となり、主力の長崎産の入荷もあった。北海道産の残量入荷もあったが、不作で産地残量が少なく中旬には切り上がり、月間では前年の2割程度の入荷となった。鹿児島産は契約品の入荷で入荷量が多く、長崎産は前年が大幅に出遅れたが今年は順調な出荷スタートとなったため、前年の4倍以上の入荷量となった。メイクインは、鹿児島産が作付け減により産地出荷量は極端に少ない状況が続き、月間の入荷量は前年の4分の1程度となった。月間全体の入荷量は、前年を2割以上下回り、平年を3割以上下回った。</p> <p>丸芋の価格は、鹿児島産の契約もあり、九州産地の潤沢な入荷もあって安定して推移したが、メイクインの価格は、北海道産が不作で産地残量が少ない中でも入荷の主体となったため、単価が低く推移した。ばれいしょ全体では前年をやや上回り、平年を3割以上上回った。</p>
	さといも 	<p>愛媛産の入荷であった。産地出荷は終盤に向かい旬を追うごとに入荷減量となるも、月間の入荷量は、少なかった前年を上回った。業務用関係向けを中心に、輸入の中国産の入荷もあったが、入荷量は多くなく前年をかなり下回った。月間全体の入荷量は、前年をかなり大きく上回り、平年をかなり大きく下回った。</p> <p>月間の価格は、不足感から高値だった前年を大幅に下回り、平年をやや上回った。</p>
	たまねぎ 	<p>長崎産、兵庫産、佐賀産が主体となり、北海道産の残量入荷もあった。北海道産は不作だった影響で産地残量が少なく、終盤でもあるため旬を追うごとに入荷減量となり、月間では前年の3割程度の入荷量にとどまった。長崎産、兵庫産、佐賀産は降雨続きで収穫が遅れ、産地出荷量が少ない状況が続いた。不足感から業務用関係では輸入の中国産の利用も増え、国産が小玉傾向であったことから大玉を中心に入荷量が増えた。月間全体では、入荷量が伸びずに前年をかなり大きく下回り、平年を大幅に下回った。</p> <p>価格は、不足感から高値続きだった影響が残り、入荷量が増えない中で高値が続いた。新物の産地がスタートして旬を追うごとに微減傾向となったが、月間では、前年を2割以上上回り、平年を3割以上上回った。</p>

(執筆：東果大阪株式会社 新開 茂樹)



# (参考) 指定野菜 (15品目) の卸売価格の推移 (大阪市中央卸売市場)



(単位：円/kg)

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月															
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬														
令和6年	173	156	165	170	173	165	174	191	219	214	224	229	223	230	217	197	196	186	180	205	221	215	222	219	210	225	205	208	199	201	206	237	226	216	225	264		
令和7年	278	245	231	238	249	263	259	243	227	211	218	220	190	170	161	175	185	185	183	189	195	203	224	241	230	211	224	223	198	189	222	214	207	194	198	195		
令和8年	201	198	197	207	215	215	196	204	203	217	224																											
平年	191	171	176	176	183	184	189	187	190	185	198	198	187	179	179	176	176	173	167	175	194	180	190	200	202	209	198	191	177	177	187	183	173	166	176	186		

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年とは、過去5カ年（令和3年～7年）の旬別価格の平均値である。

注2：大阪本場及び大阪東部市場のデータである。

注3：令和8年6月号（4月実績掲載分）以降、指定野菜はブロッコリーを含む15品目のデータのデータである。なお、平年、令和6年、7年のデータもブロッコリーのデータを含む。